

文部科学省

TITLE

国民の学習活動の促進に関する特別委員会

工藤 啓

NPO法人「育て上げ」ネット

民間支援の現状

■NPOを中心とする、民間の若年者に対する支援状況について

⇒支援団体は二つに大別される

- ①こころ系・・・主に対人関係に強く不安を抱える若者を支援
- 1) その「場」に参加する
 - 2) その「場」にいる人間と関係を作る
 - 3) 内部のイベントに参加する(レクリエーションなど)
 - 4) ボランティアなど、相手の理解がある「場」に参加する
 - 5) 心理カウンセラー、臨床心理士等との面談、保健所・精神保健福祉センターの活用

※結果がわかりづらい、自立支援としての初歩段階

- ②就業系・・・主に賃金労働に従事することを強く希望する若者を支援
- 1) その「場」に参加する
 - 2) 職場研修に参加する(OJT)
 - 3) 外部のイベントに参加する(地元イベントが多い)
 - 4) キャリアカウンセラーとの面談、ハローワークの活用

※結果が明確に出てしまう(いくら稼げるようになるか、どれだけ継続できたのかが数字であられる)

※そのため、サービス業としての評価を強く求められる⇒取り組む団体が少ない

- (!)こころ系支援団体は経済的自立支援に行き詰る
就業系支援団体は対人関係に強い不安を抱える若者を支援しきれない
⇒相互連携は不可欠である

ニート状況にある若者①

■アウトリーチ

①情報の伝達は8割から9割が保護者から

- ・支援情報(新聞、テレビ、雑誌、広報誌など)は直接本人に伝わらない
⇒保護者(家族)の発見⇒本人への伝達(間接情報宣伝スタイル)

②相談には保護者が訪れることからスタート

- ・本人が最初から相談の場に来ることは少ない
(参考)

「育て上げ」ネットの相談内訳

母親のみ 7割 母親と本人 2割 本人1割弱 父親が来る・・・ほとんどない

③保護者の相談の困難性

- ・困難性 1) 保護者を前に、本人の状況をつかめる相談員が少ない
⇒本人が参加意欲を持つ「しかけ」が作れない
2) 保護者の本人像と、実際の本人像に隔たりがあることが少なくない

※「しかけ」=情報をうまく伝えるテクニックと経験

※保護者に向けた広報活動の方法

※保護者の理解と支援なくして、現状ではニート支援は不可能

民間支援団体・・・月額負担金がかかる

公的機関・・・交通費、昼食代など実費がかかる

(!) 民間支援団体の限界

保護者向けセミナーや、本人への支援プログラムに参加する家庭の多くは比較的、所得高、学歴高、意識高

ニート状況にある若者②

■ 支援に要する期間

⇒ 就業系の場合、概ね、3ヶ月から1年

支援期間を決定付ける要素

- ① 現在の年齢 10代から20代前半は比較的早い
30代前半から後半は時間がかかるケースが多い
※ 労働市場が閉じていく経済的な問題
※ 年下が年上を部下にしづらい、日本風土の問題など

② 社会から離れた期間

10代であっても、30代であっても、社会から離れている期間が短いほど、支援の効果が現れるのが早い。

※ 正社員経験、アルバイト経験がある方が、支援効果は高い
これは試験的に行なった、EQ検査でも実証されている。

■ 男女差の問題

⇒ 男性よりも、女性のほうが支援しづらい傾向にある

① 保護者世代の価値観

支援機関に通うことがシンドイ時期に、保護者が「つらかったらやめてもいいよ」と声をかけてしまうのが女性側に多くみられる。またいまの保護者世代には専業主婦家庭モデルが多いこともある。

② 支援者に男性が多い

他者とのかわりが苦手な場合、概ね、それは異性に強くでる。支援者に男性が多いこと、現在の利用者に男性が多いことで支援を受けづらい環境になっている可能性がある。

③ その他

ニート状況にある若者③

■ニート状況にあった若者の傾向

①孤立傾向(ニートになったからではなく、義務教育段階から)

②昼夜逆転

1) 必然的昼夜逆転

2) 積極的昼夜逆転

③雑談に苦手意識(学校の休み時間・職場の休憩時間・放課後、仕事後)

④社会経験の不足⇒欲が涵養されない

※ニートだけではなく、若者全般に言えることであるが・・・

生活コスト・社会コストの感覚に乏しい＝自立モデルテスト(一人暮らしをするときのコスト感覚)

・家賃・水道光熱費・食費・携帯・・・(感がえられる)・・・10万円あればなんとか生活

(しかし)

・住民税・国民年金・敷金/礼金・生命保険など(×考えられない○知らない)・・・10万円では生活

できない

■社会的に誤解されている点

①学ぶ、働く意欲に乏しい

②パソコンやゲームを一日中やっている/携帯電話で遊んでいる

③甘やかし、親の経済力に依存

無いとは言えないが、状況はそれほど単純化できない

④認知が行動を変える

フリーターは「やりたいことがわからない」・ニートは「やりたいことがない」

社会経験の欠如も伴い、考えを引き出すことは難しい。現状に関して、働くことに関しては考えすぎている。⇒行動が認知を変える⇒「思い切って」やってみる環境が重要

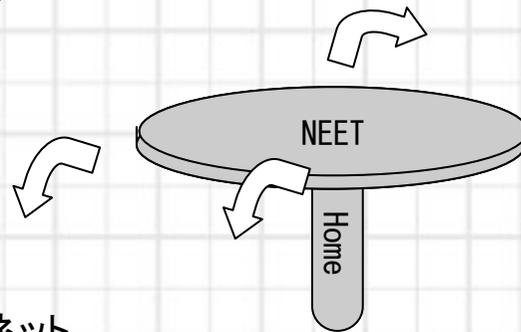
ニート状況にある若者の課題

三つの社会的所属

ニートは不安定な状況にある

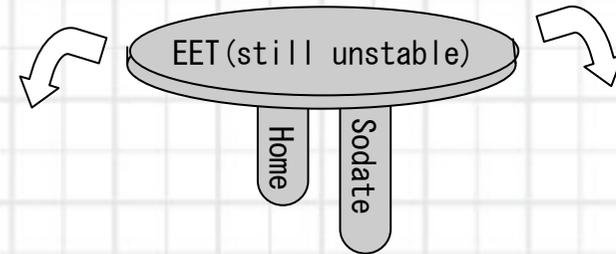
ケース1 自宅のみ

とても不安定



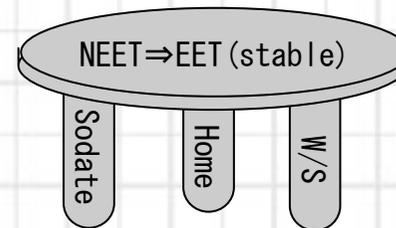
ケース2 自宅と「育て上げ」ネット

まだ不安定である



ケース3 自宅、「育て上げ」ネットと職場

安定する



NPO Sodateage Net Program

ニートには実体験ベースの研修が必要である
 ⇒「やりたいこと」から「やったこと」「やったこと」へ
 ⇒行動が自信を付けさせ、職業選択にも影響を与える

⇒⇒⇒「育て上げ」ネットの研修プログラムの大半は、実際に請け負った“仕事”である



Agriculture



Manufacture/sales



Repair/Paint



Career Counseling



Packaging



Food/Cooking



Excavation



Music



Flower Shop



Company Internship



Cleaning/Maintenance

